



付加価値の高いモノづくり技術の研究開発拠点

「知の拠点あいち」は、豊田市と瀬戸市の境界域に位置する、付加価値の高いモノづくり技術の研究開発拠点です。

現在、「あいち産業科学技術総合センター」、「あいちシンクロトロン光センター」及び「実証研究エリア」の3つの施設で構成されています。

あいち産業科学技術総合センターは、2012年2月にオープンした知の拠点あいちの中核施設であり、高度かつ汎用的な計測分析機器を用いた依頼試験等を通じて、企業の新技術・新製品開発への取組を支援しています。

あいちシンクロトロン光センターは、2013年3月にオープンした分子や原子レベルで物質の組成等を解析できる、産業利用を主目的とした地域共

同計測分析施設です。地域の産学行政の連携・協力のもと、(公財)科学技術交流財団が運営しています。

実証研究エリアでは、次世代成長産業の振興・育成を図るため、企業や大学の実証研究の取組を支援しています。

現在、知の拠点あいちでは、オープンイノベーションにより大学等の研究シーズを活用して、県内主要産業が有する横断的な課題を解決し、新技術の開発・実用化、新たなサービスの提供、そして、次世代産業の創出を目指す産学行政連携の研究開発プロジェクト「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」を実施しています。

